JENNISON

米国株式市場見通し

2026年10-12月期

当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。
すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。このレポートの再配布はご遠慮ください。

2026年7-9月期の株式市場概況と10-12月期の見通し

マクロ経済の不確実性が残る中でも、米国株式はプラスのリターンを確保

2026年7-9月期の米国株式市場は、根強いインフレ、長期金利の上昇、地政学的な不確実性にもかかわらず、底堅い経済成長と堅調な企業業績に支えられて小幅に上昇した。AIおよび関連インフラへの継続的な投資が、企業の設備投資と業績の双方を下支えする中、利益成長は引き続き過去の平均を大きく上回り、特に情報技術が好調だった。

市場概況

市場の牽引役は引き続き情報技術とAI関連企業に大きく集中した一方、地政学的緊張の高まりを受けて原油価格が上昇したことから、エネルギーも力強いパフォーマンスを示した。しかし、その内訳に目を向けると、市場の大部分の銘柄は出遅れており、セクター間や個別企業間のパフォーマンス格差は拡大した。また、長期金利の上昇はグロース株にとってより厳しい環境をもたらし、消費関連企業の重石となった。

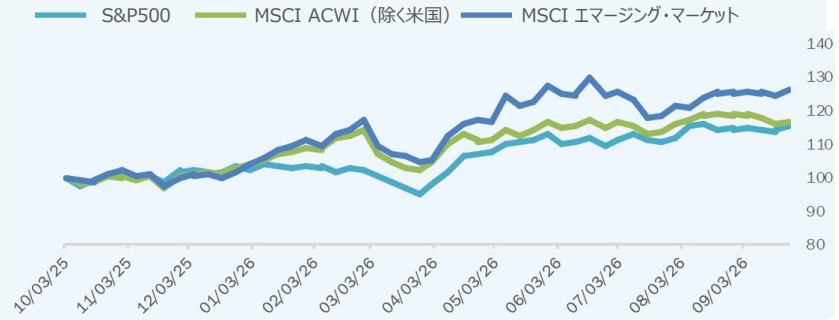
マクロ経済全般については、年初来の市場パフォーマンスに影響を及ぼしてきた多くの要因が、引き続きボラティリティを高める一因になると予想している。こうした要因には、根強いインフレ、高止まりする金利、地政学的な不確実性、中間選挙などが含まれる。

消費活動と経済成長全般は概ね底堅さを維持しているが、我々は原油価格の上昇や広範なインフレ圧力が個人消費に及ぼす影響を引き続き注視している。とはいえ、企業利益の成長見通しは引き続き概ね良好であり、AI関連投資の規模と広がりは、市場とセクターのパフォーマンスにおいて引き続き重要な役割を果たしている。

スタイル別パフォーマンス

- 7-9月期は、小型、中型、大型にわたって、バリュー株がグロース株をアウトパフォームした。
- 7-9月期は小型バリュー株が市場リターンの牽引役となり、直近1年でも最も良好なパフォーマンスを示している。
- 直近3年と10年では、大型グロース株がアウトパフォームした。

主要株式指標パフォーマンス



2026年9月30日現在　出所：ジェニソン、FactSet、MSCI

スタイル・インデックス・パフォーマンス（%）

2026年7-9月期

	バリュー	コア	グロース
大型	2.6	1.8	0.9
中型	-2.0	-3.0	-5.8
小型	-4.9	-7.2	-9.4

直近1年

	バリュー	コア	グロース
大型	23.8	15.0	7.5
中型	16.9	12.0	-2.7
小型	20.8	16.2	12.1

直近3年

	バリュー	コア	グロース
大型	20.1	22.5	24.3
中型	17.5	17.2	15.4
小型	17.9	17.7	17.6

直近10年

	バリュー	コア	グロース
大型	11.4	15.0	18.2
中型	9.9	11.2	11.9
小型	9.4	9.8	9.9

2026年9月30日現在　出所：ジェニソン、FactSet、MSCI

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスの定義、GICS分類およびその他の重要情報については留意事項を参照ください。すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。戦略は、セクターや発行体の保有割合、ポートフォリオ特性、証券タイプなど、複数の点でベンチマークと大きく異なる場合があります。

セクター別パフォーマンスと見通し

セクター別パフォーマンス

- セクター別では、情報技術とエネルギーがアウトパフォームした一方、資本財は劣後した。
- 直近1年の期間では、エネルギーと情報技術が最も良好なパフォーマンスを示したセクターとなった一方、公益事業と一般消費財が出遅れている。
- 直近10年の期間では、情報技術が最も好調なパフォーマンスを示した一方、不動産が最も出遅れている。

株式市場の見通し

我々は引き続き、AIはコンピューティング分野における構造的な変革をもたらす、複数年にわたる投資サイクルであると捉えており、その投資機会は従来のテクノロジー企業の枠を越えて、ますます幅広い産業へと広がっている。

同時に、当四半期には、AI投資のペース、投資収益の持続性、最終的にどの企業が主な受益者となるかについて投資家の間で急速な見直しの動きが見られ、ボラティリティが大きく高まる可能性が浮き彫りになった。

我々はこうした動向を注視しており、市場がAIエコシステム全体にわたって企業を選別していく中で、規律あるファンダメンタル分析がますます重要になると考えている。

我々は、様々な市場展開に対応できる、規律ある長期的な投資アプローチの維持に引き続き注力しており、長期的な競争優位性を有するクオリティの高い成長企業に焦点を当てている。

また、変化し続ける環境の中で生じる新たな投資機会を継続的に確認しつつ、長期的な成長とリスク管理に重点を置いている。

我々が投資対象とする企業は、独自性の高い製品やイノベーションを基盤とし、強固な競争優位性と市場におけるリーダーシップに支えられて、複数年にわたって成長機会を捉えることができる企業である。

S&P500インデックス GICS業種別パフォーマンス（寄与度、bps）

	7-9月期	1年	3年	5年	10年
情報技術	7	30	37	24	26
資本財	-10	9	20	13	13
一般消費財	-5	-5	13	6	12
金融	-0	1	19	9	13
ヘルスケア	6	23	11	8	11
不動産	-6	2	11	2	6
コミュニケーション・サービス	4	12	29	13	13
素材	-3	10	10	6	10
生活必需品	-2	6	10	7	8
公益事業	-12	-7	14	8	8
エネルギー	17	42	14	23	10
インデックス	2	16	23	14	15

2026年9月30日現在　出所：ジェニソン、FactSet、MSCI

主要インデックスのセクター構成（%）

	S&P 500	MSCI ACWI (除く米国)	Russell 1000 グロース	Russell 1000 バリュー
情報技術	40	22	56	21
金融	11	25	5	18
ヘルスケア	9	7	5	13
一般消費財	9	7	7	10
コミュニケーション・サービス	10	4	17	3
資本財	8	14	7	10
生活必需品	4	5	1	7
エネルギー	3	5	1	6
公益事業	2	3	0	3
不動産	2	1	0	3
素材	2	7	0	4

2026年9月30日現在　出所：ジェニソン、FactSet、MSCI

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスの定義、GICS分類およびその他の重要情報については留意事項を参照ください。当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。このレポートの再配布はご遠慮ください。

主要セクター別見通しと投資判断

情報技術

2026年7-9月期の情報技術セクターは、AIの恩恵を受ける企業、半導体の主要企業、データセンター・インフラ関連企業のファンダメンタルズの改善が引き続き加速したことに牽引され、非常に好調であった4-6月期に続き堅調なパフォーマンスを示した。

こうした堅調なパフォーマンスは、AIが牽引する利益成長の持続性に対する信頼の回復を反映したものである。情報技術とコミュニケーション・サービスの利益見通しは引き続き市場において最も堅調であり、EPS（一株当たり利益）見通しを上方修正した企業は情報技術セクターに大きく集中した。

同時に、当四半期は、情報技術は引き続き長期的な成長期待に依存する性格が強いことを改めて示した。そのため、基礎的な需要動向が概ね堅調に推移する中でも、割引率の変化、マクロ環境の不確実性、AIインフラ投資の持続的な収益性に対する市場の評価に、株価は引き続き大きく反応した。

投資テーマと注目点

AI、半導体、AIインフラ

AIは引き続き世界のテクノロジー支出の中心的な牽引役である。この投資サイクルは、先端ロジック半導体、半導体メモリー、ネットワーク、データセンター・インフラへの需要を引き続き下支えしているが、受注動向は、全面的な容量の増強ではなく、個別の導入スケジュールに紐づいた、より選別的なものとなりつつある。

クラウドおよび企業によるIT投資

クラウドは引き続き企業ITインフラの中核となっているが、2026年7-9月期の需要は、無制限の投資拡大というよりも、最適化と生産性向上を軸としたものになった。顧客は、AIの機能と明確なコスト削減、業務プロセスの改善、またはインフラ効率化を組み合わせたプラットフォームを引き続き優先しており、ハイブリッド環境への導入やワークロードの配置も、投資判断の中心であり続けている。

ソフトウェア／SaaSとAIによる代替リスク

ソフトウェア/SaaS（サービスとしてのソフトウェア）関連企業については、AIネイティブ・ツールの登場や企業のIT予算の変化を踏まえて投資家が将来の成長性を見直す中、長期的な勝者と敗者の見極めが引き続き進められている。多くのソフトウェア銘柄のバリュエーションは依然として低水準にとどまっているが、市場は、AIを実際に収益化できる可能性を持つ持続性の高いプラットフォームと、コモディティ化や他の用途への予算の振り替えによる影響を受けやすい企業とを、なお選別している途上にある。

デジタル・トランスフォーメーションとサイバーセキュリティ

デジタル・トランスフォーメーションに向けた取り組みは続いているが、新規投資は、定量的に測定可能な投資利益率（ROI）、耐性、自動化によるメリットを備えた施策にますます紐づくようになっている。AIの進展に伴う脅威が高度化し、企業が設計段階からのセキュリティ確保（セキュア・バイ・デザイン）、クラウドの保護、ゼロトラストの考えに基づくアクセス制限の導入をより重視する中、サイバーセキュリティには引き続き予算が配分されている。

一般消費者向けテクノロジーとバリュエーション

一般消費者向けテクノロジーの動向は引き続き強弱が入り混じっている。デバイスの販売台数の伸びは緩やかな水準にとどまる一方、AIを活用した機能やサービス、一般消費者向けモバイルAIアプリケーションの初期段階の開発が、長期的な収益拡大を引き続き下支えしている。2026年7-9月期には、AIやインフラ投資による業績拡大が明確に見込まれる企業へと投資家の選好が回帰したが、クオリティの高いテクノロジー銘柄の多くが大きく反発した後だけに、バリュエーションを重視する姿勢は引き続き重要である。

ヘルスケア

7-9月期のヘルスケアは、S&P500インデックス全体をアウトパフォームした。

ヘルスケアの良好な絶対リターンと相対リターンは、主要な臨床試験結果の発表、規制当局による承認の加速、ライフサイエンス・ツールのファンダメンタルズの改善といった、限られた個別企業固有の材料によってもたらされた。当四半期で最も影響の大きかったイベントは8月に起きた。Modernaが、Merckと共同開発した個別化mRNAがんワクチンの第3相試験で良好な結果を発表し、Keytrudaとの併用によりメラノーマ（悪性黒色腫）の再発が統計的に有意に減少したことを示した。

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスの定義、GICS分類およびその他の重要情報については留意事項を参照ください。当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。このレポートの再配布はご遠慮ください。

主要セクター別見通しと投資判断

mRNAがんワクチンの有効性が大規模試験で初めて実証されたことは、Modernaと精密腫瘍学にとって転換点となる可能性があると広く受け止められ、腫瘍学、ゲノミクス、診断、AIを活用した創薬、その他の個別化医療の恩恵を受ける企業が幅広く上昇した。FDA（米国食品医薬品局）の承認件数は、腫瘍学、神経学、希少疾患、遺伝子治療、診断、免疫学にわたり前年から大幅に増加し、バイオマーカーに基づく医療、遺伝子治療、標的型の腫瘍治療の進展を浮き彫りにした。

臨床試験の結果と相まって、これらの承認は個別企業の株価を押し上げる好材料が相次ぐ環境につながった。ただし、パフォーマンスには引き続きばらつきが見られた。大型のバイオテクノロジーと製薬は、臨床面および規制面での前向きな進展を受けて概ねアウトパフォームした一方、新薬の開発初期段階にあり収益化までの期間が長い銘柄の多くは、金利上昇によるバリュエーション低下を受けて出遅れた。マネージドケアは、医療費、収益性、診療報酬を巡る懸念から、主要な業種の中で最も低調だった。医療機器の業績はまちまちで、低水準のバリュエーションが下支えとなった一方、診療報酬を巡る懸念、一部の循環器領域市場での成長鈍化、整形外科関連需要の軟化が業界の重石となった。

投資テーマと注目点

2026年の残りの期間から2027年にかけて、我々はヘルスケアに対して前向きながらも選別的な見方を維持している。7-9月期のパフォーマンス格差は、企業のファンダメンタルズの重要性を改めて示した。臨床面および規制面での進展が治療薬を牽引した一方、需要の改善がライフサイエンス・ツール/サービスを下支えした。生産性の高いイノベーション・サイクルと、長期化した在庫調整後のバイオ医薬品需要の回復が、ポートフォリオでこれらの分野をオーバーウェイトする根拠となっている。マネージドケアと医療機器については、より選別的な姿勢を維持している。

治療薬のイノベーションは、腫瘍学、免疫学、希少疾患、神経学、心血管・代謝疾患、遺伝子医療にわたる。個別化mRNA療法によるメラノーマの第3相試験の良好な結果は、個別化がん治療の有効性を裏付ける重要な成果となり、より広範な臨床面および規制面での進展は、新薬パイプラインの幅広さを一段と強固なものにした。ポートフォリオは、確立された肥満症および腫瘍学のフランチャイズと治療ニーズが十分に満たされていない疾患に取り組む小型のバイオテクノロジー企業を組み合わせ、持続的な商業的成長と、新たなプラットフォームや新しい標準治療から得られる潜在的な上振れ余地とのバランスを図っている。我々は、差別化された科学、臨床的に意義のあるデータ、明確な規制承認および商業化に向けた道筋を重視している。

ライフサイエンス・ツール/サービスでは、在庫調整が緩和し、バイオ医薬品関連の活動と受注が改善し、研究開発投資が継続する中で、需要回復の初期段階を示す明確な兆候が見られた。治療法の複雑化は、専門的な研究、分析、製造能力への需要を支えている。長期的には、製薬企業の研究開発費の増加、AIが牽引するイノベーション、NIH（米国国立衛生研究所）の資金支出の改善、サプライチェーンの国内回帰によって、トレンドを上回るオーガニック成長がもたらされる可能性がある。AIを活用した創薬は、開発パイプラインを拡大し、ツール、CRO（医薬品開発業務受託機関）、CDMO（医薬品の受託開発/製造）への需要を拡大させる可能性もある。回復には依然としてばらつきがあるが、受注、バイオプロセシング活動、バイオ医薬品関連企業の資金調達の改善により、2027年の利益成長とバリュエーションが押し上げられる可能性がある。

マネージドケアについては引き続きアンダーウェイトとし、選別的な姿勢を維持しているが、医療費の動向が改善する中、より前向きな見方をしている。規律ある価格設定と給付内容の調整が利益率の早期回復を支える一方、多角化されたヘルスサービスと薬局事業が利益成長の機会をもたらしている。診療報酬と公的医療保険制度を巡る不確実性は残るものの、コストの見通しが立てやすくなったことで、2027年の見通しは改善している。

医療機器では、割安なバリュエーションが10-12月期初めの回復を支えたが、業績がまちまちであることや、手術件数がコロナ禍後のピークを下回っていることから、引き続きアンダーウェイトとし、選別的な姿勢を維持している。我々は、医療サービスの利用動向への依存度が低い、イノベーション主導の成長分野に注目している。具体的には、構造的心疾患、ロボット支援手術と整形外科、自動インスリン投与、デジタル歯科医療である。全体的には慎重な見方をしているものの、新製品の投入、適応症の拡大、普及の進展により、引き続きこれらの分野を注視している。

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスの定義、GICS分類およびその他の重要情報については留意事項を参照ください。当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。このレポートの再配布はご遠慮ください。

主要セクター別見通しと投資判断

ヘルスケアは引き続き、成長性に比して魅力的なバリュエーションを提供しているが、ファンダメンタルズとセンチメントの改善により、歴史的に大きかった市場全体に対する割安さは大部分が解消された。今後のさらなる相対的な上昇は、利益成長と事業遂行力にますます左右される。治療薬は、臨床面および規制面での進展と、新たなプラットフォームにおける今後のデータ発表に支えられ、引き続き我々が最も確信を持っている分野である。また、ライフサイエンス・ツールは、バイオ医薬品需要の回復から恩恵を受けると見ている。材料主導となった7-9月期を経て、今後は利益の実現、臨床面での進展、銘柄選択がパフォーマンスの牽引役としてますます重要になるだろう。

金融

2026年7-9月期、S&P500インデックスの金融セクターは、S&P500全体のリターンを下回った。資本市場と金融サービスが牽引役となった一方、住宅ローンREIT、個人向け金融、銀行は出遅れた。

良好な世界のマクロ経済環境、健全な銀行の信用状況、底堅い消費活動に支えられ、様々なビジネスモデルの長期的なファンダメンタルズは引き続き良好であると見ている。トランプ政権の企業寄りで成長を重視する政策目標の下、減税（特に設備投資減税）、金融機関に対する資本要件の緩和、規制緩和の見通しが、広範なセクターや業界における利益成長期待を一段と押し上げている。

とはいえ、中東紛争やエネルギー価格の上昇に起因する景気後退により、こうした見通しが一変する可能性がある。銀行や主要な資本市場関連企業は特に影響を受けやすく、プライベート市場で続く流動性と信用上の問題がそのリスクを一段と高めている。我々は、信用問題は概ねプライベート市場内にとどまっていると考えているが、波及への懸念は現実に存在する。状況が悪化した場合、信用損失が増加し、個人・企業向け融資が減速する可能性がある。

投資テーマと注目点

企業規模が大きく質の高いマネーセンター銀行、個人向け金融サービス、大手地方銀行は、現在、バランスシート、資本、リスク管理に関する幅広い指標において良好な状況にある。同セクターのバリュエーションは正常化している。今後の利益成長は、主に堅調な収益動向と信用管理、利鞘の拡大、手数料収入をもたらすビジネス機会の成長、テクノロジーやAIの活用拡大による継続的な効率性の向上が牽引すると予想される。

グローバルなオルタナティブ資産運用会社は、力強い経常収益、継続的な取引活動の資金となる手数料ベースの運用資産を安定的に積み上げる能力、スプレッドに基づく収益源の最適化に支えられ、魅力的なバリュエーションと持続的な収益成長を提供している。

大手損害保険会社のファンダメンタルズは、その事業規模に支えられて堅調であり、バリュエーションも妥当な水準にある。同業界は、引き続き投資家にとってディフェンシブな投資先となっている。

低いレバレッジ、アセットライト型のビジネスモデル、高い利益率と力強いフリー・キャッシュフローを備えた持続可能な事業といったディフェンシブな属性を有するフィンテックの長期的な成長企業は、クオリティと持続的な成長を求める投資家から引き続き注目されている。複数のデジタル決済および金融テクノロジーを提供する企業が、これらの要件を満たしている。

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスの定義、GICS分類およびその他の重要情報については留意事項を参照ください。当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資は、元本損失を含むリスクを伴います。このレポートの再配布はご遠慮ください。

留意事項

- 世界産業分類基準（以下“GICS”）：MSCI, Inc.（以下“MSCI”）とスタンダード・アンド・プアーズ・フィナンシャル・サービシスLLC（以下“S&P”）が開発し、両社が独占所有権を持つサービスマークで、ジェニソン・アソシエイツLLC（以下“ジェニソン”）は「そのままの状態で」利用するライセンスを保有しています。2009年10月1日時点で、ジェニソンはS&P/MSCI GICSで分類されている証券を再分類することはしておらず、GICSで分類されていない証券のみをジェニソンが分類します。そのため、本資料にはS&P/MSCI GICSが分類した企業とジェニソンが分類した企業の両方が含まれている可能性があります。
- 本資料に記載している指数は情報提供のみを目的としています。**MSCI ACWI（オール・カントリー・ワールド・インデックス）**は浮動株調整後の時価総額加重平均指数で、先進国と新興国における株式市場のパフォーマンスを示すものです。MSCI ACWI を構成するのは先進国24ヶ国、新興国21ヶ国の合わせて45ヶ国の株価指数です。**MSCI EM（エマージング・マーケット・インデックス）**は、浮動株調整後の時価総額加重平均指数で、世界の新興国市場の株式パフォーマンスを示すものです。MSCI EMを構成するのは、新興国26カ国の大型株と中型株です。ベンチマークの**ネットのリターン**は返還請求が可能あるいは不可能な源泉税を差し引いたものです。ここで適用されている源泉税率はコンポジット・リターンの計算に用いられている源泉税率と異なり、コンポジットの税率よりも高い場合があります。**スタンダード&プアーズ500®（以下、S&P 500）インデックス**は、ニューヨーク証券取引所で取引される主要500銘柄を時価総額加重平均したインデックスです。**S&P500®フィナンシャルズ・インデックス**はGICS金融セクターに分類される銘柄で構成されています。**ラッセル1000®グロース株インデックス**は、ラッセル1000インデックスのうち、特にグロース株の特性を備えた銘柄で構成され、**ラッセル1000®バリュー株インデックス**は、特にバリュー株の特性を備えた銘柄で構成されています。ラッセル1000®インデックスは、米国のラッセル・インベストメンツが公表する、米国の大型株のベンチマークとして利用される指数で、ラッセル3000指数の構成銘柄のうち、時価総額などを基準に上位約1000銘柄で構成されています。
- MSCIに関する情報は御社内での利用のみ許可されるものであり、いかなる種類のものであれ複製もしくは再配布することは禁じられております。また、金融商品、インデックスの基礎もしくは一部として用いられることも禁じられております。MSCIに関する情報は投資助言、或いは投資判断を行う（もしくは判断を控える）よう推奨をするものではなく、また、そのような観点から信頼されるものでもありません。過去のデータおよび分析は将来のパフォーマンス分析、予測、見通しを示唆するもの或いは保証するものとして用いられるべきではありません。MSCIに関する情報は現時点のものであり、本情報の使用者は当情報の資料の使用に際する全体のリスクを負います。MSCI或いはインデックス・データの算出や収集に携わった第三者は、いかなる保証（独自性、正確性、完全性、適時性、商品性、特定目的との適合性、権利侵害の不存在に関する一切の保証を含みますがこれに限定されません）も行いません。上記を制限することなく、MSCIおよび第三者は、直接的、間接的、特別、懲罰的、付随的またはその他により生じた損害（利益の逸失を含む）に関して、いかなる場合においても責任を負いません。
- 投資家は、指数に直接投資することはできません。
- 本資料に記載しているすべての指数は、第三者の登録商標あるいは商品名/サービスマークです。それらの商標、商品名/サービスマークに関する情報やデータには所有権や守秘義務があるため、ジェニソンによる事前承諾なしに複製することは堅くお断り致します。

※ 本資料は、海外グループ会社が作成した情報提供資料の一部をPGIMジャパン株式会社（以下「当社」）が翻訳・編集したものです。原文（英語版）と本資料の間に差異がある場合には、原文（英語版）の内容が優先します。
※ 本資料は、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。
※ 本資料は、当社グループの資産運用ビジネスに関する情報提供を目的として作成されたものであり、特定の証券や金融商品等の販売・勧誘・推奨を目的としたものではありません。
※ 本資料に記載された内容等については今後変更されることもあります。
※ 過去の運用実績は将来の運用成果等を保証するものではありません。
※ 本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したものですが、その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。
※ 本資料で言及されている個別銘柄は例示のみを目的とするものであり、特定の個別銘柄への投資を推奨するものではありません。
※ 本資料は法務、会計、税務上のアドバイスを行うために作成されたものではありません。必要に応じて専門家とご相談ください。
※ 本資料に掲載された各インデックスに関する知的財産権及びその他の一切の権利は、各インデックスの開発、算出、公表を行う各社に帰属します。
※ 当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは固くお断り致します。
※ “Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。
※ 当社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国法人のプルーデンシャルplcおよび英国法人のM&G plcの子会社であるプルーデンシャル・アシュアランス・カンパニーとは何ら関係がありません。
※ プルデンシャル生命保険株式会社、ジブラルタ生命保険株式会社、PGF生命（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社）及びPGIMリアルエステートジャパン株式会社は当社のグループ会社であり、別法人です。

PGIMジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第392号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
PGIMJ133822
6103629_PGIM-20261111